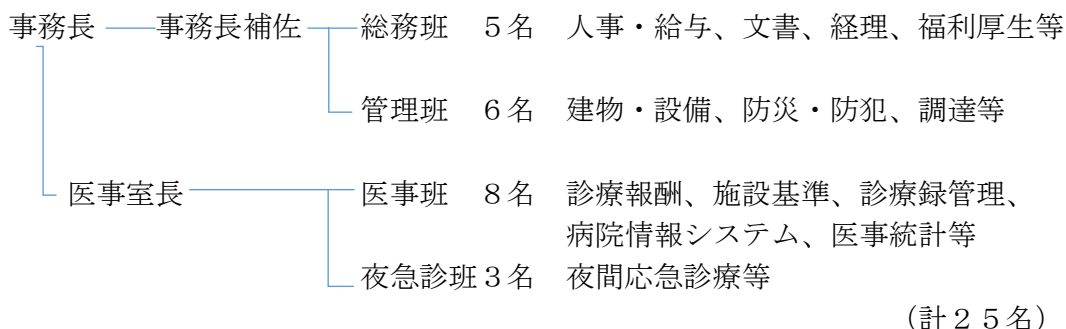


## 1 部門目標

- (1) 病院機能の強化
- (2) 施設環境の改善
- (3) 収支の改善（経費節減の徹底）

## 2 業務体制・スタッフ



## 3 業務実績

### (1) 病院機能の強化

#### ア 救急科の開設

当院は、地域の中核的な病院として胎児から高齢者まで切れ目のない医療を提供することを目指しており、平成30年8月から千葉県消防局救急隊出動地域における傷病者の搬送困難事例の解消のための「受入確保基準対象医療機関」として協力している。

高齢化の進展等により救急搬送患者が急増しており、救急受入体制の拡充が社会的な課題となっている中、救急需要に適切に対応するため、本年7月に救急科を開設した。

#### イ 移行期医療の取組み（成人先天性心疾患外来診療の開始）

近年、小児医療の進歩により、先天性心疾患の患者さんで、手術の有無にかかわらず、思春期や成人期を迎える方が増加している。小児心疾患を持ち成人となった患者さんのケアのため、平成30年6月から専門的知見を有する医師（非常勤）による予約外来（月1回）を開設した。本年4月からは予約外来を週2回に増設し充実を図った。

### (2) 施設環境の改善

開院後35年が経過し、給排水設備、電気設備、空調設備の劣化・老朽化が著しいことから、大規模な改修が必要な状態となっている。

毎年度、計画的に改修工事を実施しており、本年度は経年劣化が著しい熱源改修工事等を実施した。

また、同様に経年劣化が著しい病棟系統外空調設備改修実施設計業務を委託により実施した。

### (3) 収支の改善

#### ア 経営改善支援業務委託の実施

経営改善に向けた取組みを推進するため、専門的な知識や実績を有する事業者へ経営改善支援業務を委託した。収益増に向け、開業医訪問の強化、連携医の会の開催（約3,550万円増）、診療報酬算定強化の取組み（約837万円増）等を実施した。

費用の削減に向けては、医薬品の取引シェア見直し（青葉病院分も含め約1,200万円減）、検体検査業務の外注化推進（約400万円減）、在宅酸素関連の見直し（約110万円減）、寝具類交換の見直し（約70万円減）を実施した。

委託期間 平成30年8月1日～令和2年7月31日

## 4 1年間の総括

病院機能の強化、施設環境の改善及び収支の改善の取組みについては概ね計画どおりに進み、新規入院患者数や救急搬送受入患者数は大幅に増加するも、新型コロナウイルス感染症の影響で1月から3月の外来収益の落ち込みもあり医業収益は対前年度と同水準となった。医業収支は約▲22億1,300万円で、前年度からわずかに約6,500万円の悪化となった。

## 5 今後の目標

### (1) 高齢者医療の充実

高齢者医療に必要な診療科である整形外科の充実や高齢者に対する多様な症状や疾患への初期対応ができる総合医となるホスピタリストの育成を図る。

### (2) 施設環境の改善

病院施設の再整備を視野に入れ、費用対効果を考慮しながら施設の劣化、老朽化対策を進めていく。また病院機能強化のための施設整備を図る。

### (3) 収支の改善

収支の改善が最大の課題であることから、収益の改善と支出の抑制が必要となっている。

収益改善に向けて、DPC/PDPS等の統計データを分析・検証し、収益増に向けた様々な取組みを行う。

また、周産期・小児医療の更なる深化、移行期医療や高齢者医療の充実、集患プロジェクト（開業医訪問等）による紹介患者及び新規入院患者数の増加、接遇強化及びメディアを活用した院外への情報発信によるイメージアップに伴う患者数の増加等により収益増を図っていく。

その一方で支出抑制として、現在実施している医療材料（診療材料、薬品）の取引の見直し、委託費の削減等を引き続き実施していく。

### (4) 新型コロナウイルス感染症への対応

感染症指定医療機関ではないものの、感染症患者の医療需要に対応するため、新型コロナウイルス感染症患者と一般患者のゾーニングを徹底し、可能な限り感染症患者の受け入れを行うとともに、保健所等の関係機関と連携し、ドライブスルー方式によるPCR検体採取や宿泊療養施設への協力を努めていく。